

科目名		3DインテリアII			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		コーディネーターの実務に必要な、プレゼンテーションの必要性と技法を理解し、コンペ作品等に対応する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 課題制作を中心に、見せ方、描き方学び、就活に活かす作品を作る。 3. 条件に則したプレゼンツール作成の基本を理解する。			
学習目標（到達目標）		インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解します。3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアコーディネートの基本知識とセンスを身に付け、訴求力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学びます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		・超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ・3DインテリアデザイナーNeo3			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	①「店舗併用住宅のプランニング」 ・ブラッシュアップ ・間取り編集より、平面図の修正			方法：オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備：配布プリント	
2	「店舗併用住宅のプランニング」作品プレゼンテーション ・作品の発表 ・作品の講評			各自コンセプトや内容について発表し、講評を行う。	
3	②「住まいのインテリアコーディネーション」 ・間取りの作成			方法：オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備：配布プリント	
4	③「住まいのインテリアコーディネーション」 ・開口部、建具の設置			方法：オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備：配布プリント	
5	④「住まいのインテリアコーディネーション」 ・エレメントの設置			方法：オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備：配布プリント	
6	④「住まいのインテリアコーディネーション」 ・3Dデータ完成 ※模型またはスケッチパース提出			方法：オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに実務で活かせるレベルを目指す。 準備：配布プリント	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			コンペ課題を通じ、インテリアデザインの表現と、訴求力のあるプレゼンシートの制作を行う。トレンドの分析力、マーケティング要素。条件の整理と考え方の流れを意識して取り組むことがポイントとなる。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		PC実習				
担当教員		渡邊 美歌		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		Adobe Photoshop、illustratorを使用して画像編集、テキストの使用、印刷物を作成できるようになる。基本操作を学習した後で実際に作品を完成させながら操作を定着させる。				
学習目標 (到達目標)		Adobe Photoshop、illustratorの基本的な画像編集、テキストの使用、印刷物の作成ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師の用意する教材。iPadを準備してください。				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	illustrator 基本図形を使用した印刷物の作成 テキストの挿入、CMYKカラーの使用。			基本図形の描画・塗り・線の設定。変形・パスファインダーを学習し、それを組み合わせたデザインを使用した印刷物を作成する。		
2	Photoshop 写真が主体の印刷物を作成する。 色・明るさの調整。選択範囲の利用。フィルタ			画像に対し、色や明るさの調整、フィルタや効果を付けて好みの画像を作成する。文字と組み合わせて印刷物を作成する。		
3	Photoshop・illustrator ペンツールを覚える。			写真や下絵のトレースを学習する。(選択範囲でも活用)		
4	Photoshop・illustrator 切り抜き・合成 (様々なマスク)			写真の切り抜き・合成画像の作成。マスク (レイヤーマスク、クリッピングマスク)		
5	Photoshop・illustrator 着色、テキストを使用した印刷物の作成			Photoshopで着色やテキストを使用して作成した画像を元にして印刷物を作成する。		
6	Photoshop・illustrator これまで学習した機能を使用した印刷物の作成。			これまでの授業で学習した機能を使用した印刷物の作成を繰り返し、操作を定着させる。		
7	Photoshop・illustrator 様々な加工 (フィルタ、レイヤーモード)			2つのソフトに備わっているフィルタやレイヤーモードを使用してイメージにあった表現を身に付ける。		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題			Photoshop・illustratorは基本を学習したのち、とにかく使うことが大切です。作品の作成を通じてソフトを使いながらどんどん慣れていきましょう。ソフトを好きになって欲しいです。		
20 %	80 %	%	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴	企業のデータ処理等の請負業務、雇用対策講座・パソコン教室でのインストラクター業務					

科目名		インテリア実習Ⅱ			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		プレゼンテーションの必要性と技法を理解する。 ・課題制作を中心に、見せ方、描き方を学び、就活に活かす作品を作る。 ・条件に則したプレゼンツール作成の基本を理解する。 ・プレゼンテーション（発表）の手法を学ぶ。			
学習目標（到達目標）		インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解する。コーディネートの基本知識とセンスを身に付け、訴求力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学ぶ。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		・超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ・3DインテリアデザイナーNeo3			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ポートフォリオ制作 表紙制作、課題のブラッシュアップ			就活の自己PRとなる作品をまとめ、ポートフォリオを制作する。	
2	デザイナーズ家具研究 近代以降に作られたデザイナー家具を中心に、名称や特徴を理解し知識を深める			方法：デザイナー、名称、構造、材質が書かれたカードをグループワークで制作する。 名称や特徴を理解し、知識を深める。 準備：配布プリント	
3	インテリアの歴史 日本 古代～現代研究 インテリア様式を理解し、特徴を把握する			方法：日本のインテリア様式年表をグループワークで作成する。 各様式の名称や特徴を理解し、知識を深める。 準備：配布プリント	
4	インテリアの歴史 西洋 ギリシャ～近代 インテリア様式を理解し、特徴を把握する			方法：西洋のインテリア様式年表をグループワークで作成する。 各様式の名称や特徴を理解し、知識を深める。 準備：配布プリント	
5	①「住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2024」 ・課題の条件、概要について深く理解する ・作品イメージをまとめる ・作品テーマにつながるキーワードを見つける			方法：コンテスト作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 ペアワークで制作に取り組む。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 準備：配布プリント	
6	②「住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2024」 ・作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える ・付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める ・作品で使用する、インテリアエレメント（要素）を決める			方法：コンテスト作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 ペアワークで制作に取り組む。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 準備：配布プリント	
7	③「住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2024」 ・3Dパースを完成させる ・プレゼンシートを完成させる			方法：コンテスト作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 ペアワークで制作に取り組む。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 準備：配布プリント	
8	コンテスト作品プレゼンテーション ・作品の発表 ・作品の講評			各自コンセプトや内容について発表し、講評を行う。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			コンテスト課題への取り組みを通し、自ら考え挑戦する力を身に付ける。建築だけでなく様々な事柄に興味を持ち、条件の整理と考え方の流れを意識して取り組むことがポイントとなる。ペアワークを取り入れ、共同で作品制作を行う。実務では一人で業務を行うわけではないことを理解し、複数人と仕事をする練習と捉え協力して取り組む。習得レベル差ごとの指導も適宜行う。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名	コーディネート実習Ⅰ				
担当教員	清水彩子	実務授業の有無	有		
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	選択	授業形式		時間数	45h
授業概要、目的、授業の進め方	インテリア製図の基本から2次試験対策、実務につながる技法を身につける				
学習目標 (到達目標)	プランニング能力、製図能力、プレゼンテーション能力の向上をめざす				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	はじめてのインテリア製図、すまいの寸法、計画辞典				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インテリア製図の基本を学ぶ		より多くのプランニング、インテリア製図の作成		
2	2次試験対策の計画能力の向上		プランニングはスピード感を意識して、必要寸法を暗記		
3	表現技法の習得		パース、アイソメ、フリーハンドの数をこなす		
4	プレゼンテーション技術の習得		できる限り発表の場を設ける		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点 30%	課題 60%	出席日数 10%	%	インテリアコーディネーターの仕事の醍醐味を感じられる技術、知識が身につく授業です。実力をコツコツと積み重ね、実務で花咲くようにねがっています。必ず、課題を提出すること。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	資格試験対策の講師歴21年。建築会社設計室勤務3年。フリー実務21年。				

科目名		コーディネート実習Ⅲ				
担当教員		清水彩子		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択		選択	授業形式		時間数	45h
授業概要、目的、授業の進め方		資格取得を第一目標に本年度より新たなテキストを加え、1次試験のCBT方式に対応できる内容にする				
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーター資格1次試験突破。実務対応の知識の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		公式ハンドブック上、下巻 過去問題上、下巻 インテリアコーディネーター合格テキスト				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	インテリアコーディネーションの計画			必ず授業前に合格テキストで予習をやり、確認。基本はあくまで公式テキスト上、下巻		
2	プランニングに必要な数値			同上		
3	環境と設備			同上		
4	インテリアコーディネーションの表現			同上		
5	インテリアの関連の法規、規格、制度			同上		
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題	テスト	出席日数	予習必須、必ず授業のはじめに確認し、課題のなかで評価。3時間の授業は自分で学習する30時間分の内容だと自覚し、しっかりと聞く		
10%	20%	60%	10%			
成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする 成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)						
実務経験教員の経歴		資格取得講師歴22年、建築会社設計室勤務3年、フリー実務22年				

科目名		コーディネート実習Ⅲ			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		選択必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築とデザインの基礎、インテリア・住宅空間・実務に関する基本などを学び、講義を通しインテリアコーディネーター資格の取得を目指す 1. 建築、デザイン他インテリア関連の諸知識、実務ををしっかり理解する 2. コーディネーターとしての実務、プレゼン手法を理解する 3. インテリアコーディネーター資格試験対策 4. 講義→練習問題→解答→過去問題→解答→解説を繰り返すことで習熟度を上げる			
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネータ資格試験合格に向けての対策講座です。重要キーワードの解説と問題演習を行い合格へ向けて、知識を高めます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①インテリアコーディネーターハンドブック上・下、 ②インテリアコーディネーター一次試験過去問題集上・下			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	第1章 インテリアコーディネーターの誕生とその背景 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
2	第2章 インテリアコーディネーターの仕事 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
3	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ (材料) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
4	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ (構造・構法) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
5	第5章 インテリアエレメント (家具) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
6	第5章 インテリアエレメント (造作部品) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
7	第5章 インテリアエレメント (窓装飾) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
8	第5章 インテリアエレメント (カーペット) 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
9	第5章 関連エレメント 練習問題・過去問題			方法：各分野ポイント解説、演習問題で知識の定着を図る。 合格ラインの点数を目標に弱点の克服、自宅学習も義務付ける。 準備：教科書①・②の復習と過去問題の学習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組姿勢	評価テスト			資格取得を目指す。しっかりと準備して意識づけを行い、授業に取り組む。インテリアコーディネーター学科試験でも出てくる分野なを、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		コンペ指導			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		デザインコンペへの参加を通し、実務に活かせるプレゼンテーション技法を身に付けます。 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返して行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 課題制作を中心に、見せ方、描き方学び、就活に活かす作品を作る。 3. 条件に則したプレゼンツール作成の基本を理解する。 4. プレゼンテーション（発表）の手法を学ぶ。			
学習目標（到達目標）		インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解します。3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアコーディネートの基本知識とセンスを身に付け、訴求力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学びます。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 ②3DインテリアデザイナーNeo3			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	第21回 インテリアデザインコンペ2024 学生デザインコンペ 概要の説明			一般社団法人インテリアファブリックス協会が主催するデザインコンペへの参加を通し、実務に活かせるプレゼン力を身に付ける。	
2	1. テーマを理解し作品の核となるキーワードを見つける。 2. 作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える。			方法：作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表まで工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに、入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
3	3. 付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める。 4. 作品で使用する、インテリアエレメント（要素）を決める。			方法：作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表まで工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに、入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
4	5. インテリアエレメント（要素）を選定する。 6. 3Dバース制作 7. プレゼンボード制作			方法：作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表まで工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに、入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
5	課題プレゼンシート最終締切 7月中旬			方法：作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表まで工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに、入賞を目的とする。 準備：配布プリント	
6	プレゼンテーション			方法：制作したプレゼンシートを使用し、PowerPointでのプレゼンテーション技法を身に付ける。 目標：実務に活かせるプレゼン技法を習得する。	
7	課題発表			発表：デザインコンペ作品発表 講評→解説	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	平常点			インテリアの可能性を追求した作品づくりを目指す。コロナ禍以降に求められる新たな住空間の役割について考え、表現する力を習得します。作品の骨格となるテーマやコンセプトが重要となります。コンペに挑戦することで、実務に活かせるプレゼンテーション技法をしっかりと身に付けましょう。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴19年			

科目名		ディスプレイ実習Ⅱ			
担当教員		大沼久子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2年次	開講時期
必修・選択		選択必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		店舗・Displayスペース等に季節感を表現し、Displayを通して売りに上げて繋げていく実習を行う。1年次に学んだことを応用に移して、よりプロフェッショナルな表現力が出来るようにする。企画力、演出力、プレゼンテーション能力を養う。グループ作品の全員参加を目指す。			
学習目標（到達目標）		1年次に学んだ学内演出を、更にスペースを広げて表現する。ヤマシタ様での演出実習で、社会に通用する売り場演出を学ぶ。Display、ラッピング、POPとバランス良く技術を磨き、就業時の即戦力を目指す。商品装飾展示2級の全員合格を目指す。新潟県表彰も視野に入れる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		商品装飾展示テキスト、ストアオペレーションテキスト、おまたせしないラッピングテキスト、POP広告制作マニュアル、色彩検定2級テキスト、オリジナル他			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	生活催事の演出（母の日、父の日、Summer,Autumu）			方法・・・スペース確認→家具レイアウト→雑貨セレクト→演出→撮影→フィードバック	
2	部屋のコーナーインテリア（テーマカラーの出し方、棚構成、家具・雑貨の見せ方）			方法・・・着色表現、コラージュ、学内演出実技→フィードバック	
3	商品装飾展示2級検定対策			方法・・・課題発表→課題想定実技練習→タイム計測→個別指導→苦手克服：学科対策→過去問→採点・解説→傾向と対策の徹底→苦手克服→個別指導	
4	ヤマシタ校外学習（店内見学→スペース確認→家具セレクト→雑貨セレクト→企画書作成→演出→撮影→フィードバック）			方法・・・メイン・サブ商品の理解・生活提案の表現・企画書の書き方見せ方・パース表現・演出力	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	授業態度	検定結果		VMDの基礎～応用力をしっかりと身に付けて空間構成・演出を学ぶ。演出を繰り返しポイントを押さえて理解する。フィードバックを行い次回に繋げて習熟度を上げる。個別指導を含めて十分な解説を行う。校外実習では、マナー、スケジュール管理にも留意する。1年次よりも更にプロに近づくクオリティーの高い演出を目指す。グループ作品の全員参加・協調性を養う。	
30%	20%	50%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		ディスプレイデザイナー歴30年			

科目名		一般構造 II			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	2年生では鉄骨造・鉄筋コンクリート造を中心に学び、それぞれの構造の特徴や各部材名称などを覚えていく。分野ごとに確認問題を解きながら進めていき、学習した内容を覚えられるようにしていく。				
学習目標 (到達目標)	鉄骨造・鉄筋コンクリート造を中心に学び、2級建築士試験の「構造」の知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント (OneNote)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨造-1 ①鉄骨造の特徴、構造形式			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	鉄骨造-2 ①接合部 (リベット、普通ボルト、高力ボルト)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄骨造-3 ①接合部 (溶接)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄骨造-4 ①部材の設計、各部の構造			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリートの特徴 ②コンクリートの強度			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋の特徴 ②鉄筋コンクリート造の基礎知識			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	鉄筋コンクリート造-4 ①せん断補強筋比の計算			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	その他の構造 ①SRC造・補強コンクリートブロック構造 ②組積造・プレストレストコンクリート造			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10	評価テスト (2回実施予定)				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト 50 %	評価テスト 40 %	取組姿勢 10 %	%	社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。				2年生ではS造、RC造について学び、確認問題・評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
実務経験教員の経歴	建築大工として約5年実務に携わる				

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員		熊谷貴子	実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工・インテリア・建築デザイン	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		非住宅建築物ごとの、種類・規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・関連用語などを学ぶ ・教科書で用語・数値など重要項目をチェック ・まとめ板書 ・テスト			
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の学科<計画>に対応できる知識を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 やさしい建築計画 (学芸出版) 各自で準備 ●教科書をチェックするマーカーペン ●板書を記入するノート			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	小学校・中学校		運営方式、動線計画、教室計画、関連用語を学ぶ		
2	幼稚園・保育所		幼稚園と保育所の違い、幼乳児に配慮した各部計画を学ぶ		
3	テスト①		学習達成度を確認する		
4	図書館		種類、構成、動線計画、閲覧形式、書架配置、用語を学ぶ		
5	博物館・美術館		種類、構成、動線計画、巡回形式、照明計画、用語を学ぶ		
6	テスト②		学習達成度を確認する		
7	劇場・映画館		種類、構成、動線計画、舞台形式、客席計画を学ぶ		
8	事務所		レントابل比、コアプラン、事務室の計画、関連用語を学ぶ		
9	テスト③		学習達成度を確認する		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト	期末試験	取組姿勢			
40 %	50 %	10 %	%	様々な建築物の計画を学び、身近な建築物の計画に興味を持って接していきましょう	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部			

科目名		建築施工 II			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		2年次は屋根工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できるようになることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 建築施工 (学芸出版社)、配布資料			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	屋根工事			屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。	
2	防水工事			防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。	
3	左官工事			左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。	
4	タイル工事			タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。	
5	石工事			張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。	
6	内装工事			内装工事の施工方法の種類を理解することができる。	
7	順次 評価テストを実施する。 (2回以上実施予定)				
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		各分野ごとに評価テストを行う。また、評価テスト及び期末試験時には知識の書き込みを課すのでその内容や量を取り組み姿勢として評価する。出席状況や授業中の取り組み姿勢も加味する。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築法規Ⅱ			
担当教員		坂井 良二		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	「建築法規Ⅱ」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。事業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等で確認して条文の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「図説やさしい建築法規 発行所(株)学芸出版社」、「建築関係法令集 発行所(株)総合資格学院」				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	防火地域・準防火地域・法22条区域		防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
2	耐火構造・準耐火構造・防火構造等		建築物の耐火性能、防火材料に関する説明。また、用途・規模等による必要な構造の確認。(建築基準法 別表1による確認) ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
3	大規模建築物の防火区画		大規模建築物の用途・規模等による必要な防火区画・種類等を確認。防火区画の各種構造等を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
4	特殊建築物の内装制限		建築物の用途・規模等による必要な内装制限があることを説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
5	避難施設 (避難経路・直通階段・避難階段・排煙設備・非常用の避難施設)		廊下・階段等の必要な幅・出入口等、排煙設備・非常用照明・進入口・昇降機の設置基準、構造を理解する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
6	構造強度 (木造) ※この項目は時間があれば行うものとします。		木造建築物の構造強度に関する規定を説明。また、構造計算・許容応力度計算の説明と確認を行う。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	評価テスト	期末試験		法令は、建築の全てでつながっています。1年生で習った授業を思い出しながら、その関連する条項、条文を確認できるように法令集を使いこなせるかが大切です。いづれ皆さんの役に立つ時がくると思いますので、難しく考えず一緒に頑張ってください。	
20 %	30 %	50 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築設計事務所代表。設計・監理30年				

科目名		構造力学II			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に習得した反力及び応力の基礎知識を基にすすめる為、まずはこれまでに得た知識の定着を確認する。その上で断面の性質について学び、様々な問題を通して習得する。更に1年次で学んだ部材に生じる力を基に、応力度に関する知識を習得する。各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	部材の断面に作用する力の種類と性質を理解し、断面に係る力の算定方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	断面一次モーメント(図心)			図心を理解して断面1次モーメントを学び、例題を利用して解法を習得する。	
2	断面二次モーメント			中立軸を理解し、例題を利用して断面二次モーメントの解法を習得する。	
3	断面係数			断面係数を理解して解法を学び、例題を利用して断面二次モーメントと共に習得する。ここまです評価テスト1で確認する。	
4	軸応力度			軸応力度とひずみ度の関係を理解し、軸応力度の解法を習得する。	
5	曲げ応力度			曲げ応力度を理解し、曲げモーメントとの関係を習得する。	
6	せん断応力度			せん断力とせん断応力度との関係を理解し、せん断応力度の解法を習得する。	
7	許容応力度			材料の塑性による限界値を学び、その値より小さい許容値=許容応力度について習得する。	
8	許容曲げモーメント			曲げ応力度が許容曲げ応力度に達するときの曲げモーメントの値=許容曲げモーメントについて習得する。ここまです評価テスト2で確認する。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト1 40 %	期末試験 50 %	— — %	取組姿勢 10 %	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ごどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事			

科目名		就職実務 II			
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	無
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	2年	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		就職に対する意識を再認識してもらい、個別対応も含め速やかな就職内定を目指す。就活はただ就職できればいいわけではなく、自分の望む企業、自分に合った企業に就職することが大切。就活を成功させる為の必要な情報収集や企業研究の方法、面接試験対策について学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		自分自身を知り、働く意義を理解したうえで、納得できる就職活動を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		SUCCESS、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	・就職活動の流れ再確認 ・求人票の見方			学校の書類手続きの再確認を行う。 就職相談室の利用方法と求人票に書かれてる内容について理解する。	
2	・志望動機 志望動機とは何か、志望動機の作り方			志望動機とは「自己PR」と「企業研究」から成り立つことを理解する。志望動機に求められることを正しく理解し作成する。	
3	・企業訪問 作成書類(エントリーシート、履歴書)の書き方再確認、 企業訪問について			企業訪問の目的を理解し、必要な書類や持ち物を準備する。	
4	・面接試験 就職試験のマナー 面接、筆記試験対策			就職試験のマナーがなぜ重要視されているかを理解する。選考のポイントを理解し、採用試験に備える。採用試験の結果が出たあとで、どう対応すべきかを知る。	
5	各種ビジネス文書の書き方			サクセスを元にビジネス文書の書き方 (主にメール) を学ぶ。	
6	内定後の対応			内定後の企業への対応について学習する。	
7	まとめ評価テスト			就職活動において必要な知識について評価テストを実施する。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取り組み姿勢	提出物 (期限)	評価テスト		就活の進行度には個人差があるため、個々に対応した指導を行います。就職活動に必要な基本的な知識を習得し、面接や試験対策を実施します。志望企業への内定を目指してがんばりましょう。	
20 %	20 %	60 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴					